

大 学 史 研 究 通 信

第 55 号、2008 年 9 月 19 日（金）

大学史研究会

第 55 号の内容： 会員ニュース・新入会員自己紹介・第 31 回大学史研究セミナー開催のお知らせ・第 31 回大学史研究セミナー自由研究発表者募集・『大学史研究』第 24 号特集テーマへの投稿のお願い・会員新刊ニュース・事務局からのお知らせ・訃報 三浦澄雄会員 ご逝去・編集後記・大学史研究会事務局員一覧

会員ニュース

新入会員

大平 浩二（おおひら こうじ）会員

所属： 明治学院大学

研究テーマ： 経営学(説)史，経営哲学，経営組織論

田中 達也（たなか たつや）会員

所属： 大阪市立大学大学院

研究テーマ： ドイツの高等教育，オーストリアの高等教育

異動のあった会員

太田 拓紀 会員（所属変更）

新所属：日本学術振興会特別研究員

奥山 洋一郎 会員（所属変更・住所変更）

新所属：鹿児島大学

杉谷 祐美子 会員（住所変更）

土井 貴子 会員（住所変更）

中村 勝美 会員（住所変更）

長谷部 圭彦 会員（住所変更）

福石 賢一 会員（住所変更）

藤井 基貴 会員（所属変更・住所変更）

新所属：静岡大学

新入会員自己紹介

飯田 史也 会員

このたび入会させていただきました飯田史也と申します。現在、福岡教育大学学校教育講座に所属し、外国人留学生専門教育教員を務めております。

自身の研究は「仏語系専門学術人材」、すなわち幕末～明治期に、フランス語の素養をベースにして、お雇いフランス人教師による指導・自身の留学等によって法学、造船学、土木工学、陸軍工兵・砲兵等の専門学術を習得し、その後それぞれの分野で活躍した人材に関するものであり、各分野人材の養成形態や、人材としての完成後の活動の特色について、英語系、独語系などの同分野の専門学術人材との比較も試みながら研究しております。

会員の皆様にはよろしくご指導、ご高配賜りますようお願い申し上げます。

大平 浩二 会員

このたびは、大学史研究会に入会をお認め頂き感謝申し上げます。

明治学院大学経済学部の大平浩二と申します。企業組織や経営者の哲学また中国企業の経営を研究しておりますが、もともとの専門は、ドイツの経営学説史で、今は科学史のアプローチを踏まえながら経営学説ならびに経営学の生成史を研究しております。

経営学の誕生を検討する場合、特にドイツの場合には、19-20世紀にかけて創設された商科大学の歴史を抜きにしては語れません。そこで、本学会にて勉強させていただきたく、このたび入会させていただきました。

よろしくご指導下さいますよう。

田中 達也 会員

新しく大学史研究会に入会いたしました田中達也と申します。大阪市立大学大学院文学研究科人間行動学専攻教育学専修に所属する博士後期課程2年の院生です。よろしくお願いいたします。

これまでドイツの労働市場・職業教育の研究をしてきたのですが、最近ではドイツの高等教育（特に専門大学 Fachhochschule）とオーストリアの高等教育（特に専門大学）の比較研究をしています。具体的には、ドイツ・オーストリアの専門大学の成立過程について研究しています。

専門大学はカリキュラムに（1セメスター分の）企業での実務実習が義務づけられている日本にはない高等教育機関です。強いて言うなれば、専門学校と大学の間にあると言えるでしょう。「フンボルト」型の伝統的な総合大学に対する反発が専門大学の成立につながったと言えます。会員の皆様にはご教示いただければ幸いに存じます。

第31回大学史研究セミナー開催のお知らせ

第31回大学史研究セミナーを下記の通り開催いたします。今年のシンポジウムのテーマは、「大学モデルの伝播と変容」（仮題）です。

大学モデルというと、欧米先進国を思い浮かべますが、今回のシンポジウムでは、先進国のモデルを、いわば「周辺」に位置する国や地域がどのように取り入れていったのかに焦点を当ててみたいと思います。3名の会員にご登壇いただき、ラテンアメリカ、ベトナム

ム、トルコ（オスマン帝国）という、欧米モデルを移入した（させられた）国・地域を取り上げます。

現在、大学を取り巻く議論は欧米主要国を中心に展開されていますが、グローバル化の進行が言われる中、それ以外の国や地域において大学がどのような状況にあるのかを考察することは、大学の制度や文化の普遍性と特殊性を考える上で重要であると思われます。

今回のシンポジウムでは、欧米におけるオリジナルな大学モデルではなく、モデルを導入した側の視点に立って、大学モデルの特殊性と普遍性、自国の社会・文化との関係などを考えながら、新たな知見を得たいと思います。このような考察は、同じく欧米モデルを受容し、解釈・変容させつつ大学制度を創り上げていった日本の大学史に照らしても意味あるものではないかと思えます。会員の皆様の参加をお待ちしています。

<第31回大学史研究セミナー開催要項>

日時：2008年12月20日（土）・21日（日）

会場：キャンパスイノベーションセンター東京（東京都港区 <http://cic-hp.zam.go.jp/>）
（JR田町駅、都営地下鉄三田駅より徒歩数分）

プログラム（予定） 詳細は別途お知らせいたします

12月20日（土）

13：00～ シンポジウム「大学モデルの伝播と変容」（仮題）

パネリスト（予定）：齊藤泰雄（国立教育政策研究所）

近田政博（名古屋大学）

長谷部圭彦（日本学術振興会特別研究員）

17：00頃 終了予定

総会

懇親会

12月21日（日）

午前 自由研究発表

13：00頃 終了予定

（セミナー担当 福留東土）

第31回大学史研究セミナー自由研究発表者募集

第31回大学史研究セミナーでの自由研究発表者を募集いたします。発表時間は、発表件数にもよりますが、質疑応答を含めて1時間程度を予定しています。通常の学会よりもじっくりと報告・議論ができることが本会の自由研究発表の特徴です。

発表を希望される方は、**10月20日（月）まで**に、セミナー担当の福留（下記）まで発表タイトル（仮題でも結構です）を添えてご連絡下さい。申込みの形式は問いません。奮ってお申し込み下さい。

自由研究発表申込・セミナー問い合わせ先：

事務局セミナー担当 福留東土

〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2 広島大学高等教育研究開発センター

TEL&FAX：082-424-6231

E-Mail：fukudome@hiroshima-u.ac.jp

（セミナー担当 福留東土）

『大学史研究』第24号特集テーマへの投稿のお願い

『大学史研究』は次の24号から市販化されます。これを記念して編集委員会では特集を組み、原稿を依頼すると同時に、広く会員にも投稿を期待したいと存じます。

特集のテーマは「世界の大学改革 ―伝統と革新―」です。

近年のEUでは、それぞれの地域や国家の問題を抱えながらも、統一的な高等教育圏の確立に向かって大学が改革されています。その改革は、大学が歴史的に抱えてきた問題、大学が本来的に持っていた国際的・普遍的な性格と近代になって顕著となった地方的・国家的な性格をどのように調和させていくかという問題を露わにしています。

中世以来今日に至るまで、大学はいつの時代もいかなる地域においても、伝統と革新の相克に直面しながら発展してきました。その相克がどのように意識されたのか、どのように克服されたのか、あるいはされなかったのか、など、国家レベルでの改革に限らず、個別大学においても、我々が学ぶべき事例は多いと思います。

そうした事例を、時代や地域を問わず、国家政策であれ個別大学であれ、投稿していただくために、特集テーマはゆるやかな統一テーマとなっています。

ぜひ、会員の皆様には、とりわけ若手の方々には、ふるってご投稿くださいますようお願い申し上げます。

また、次号より、一千字程度の「コラム」を掲載することに致しました。大学をめぐるものであれば何でもかまいません。大学をめぐる問題を鋭くつくような、あるいは思いがけない角度から指摘するような「コラム」にも、ご投稿いただきたいと存じます。

特集原稿や「コラム」へのお問い合わせは、事務局(jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)または編集委員会児玉(PBB00673@nifty.ne.jp)までお寄せ下さい。

『大学史研究』編集委員会
委員長 児玉善仁

会員新刊ニュース

五島敦子著(2008)『アメリカの大学開放―ウィスコンシン大学拡張部の生成と展開』学術出版会

事務局からのお知らせ

「会員新刊ニュース」情報提供のお願い

本通信では、会員の研究活動の紹介を心がけております。新刊を発行されたご本人、あるいは会員が新刊を発行されたという情報を得られた方は、事務局(代表Eメールアドレス:jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp)もしくは本通信編集担当の井上までご一報いただければ幸いです。

退会者の報告

以下の会員の方が退会されました。長い間本会の活動にご協力賜りまして、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

退会者：関正夫 会員 高橋正立 会員 瀧井一博 会員 福井幸男 会員
村越純子 会員

訃報 三浦澄雄会員ご逝去

三浦澄雄会員が2008年4月27日（日）に肺癌のため逝去されました。大変穏やかな御最期であったとのこと。なお、兵庫県川西市の西福寺において、4月28日（月）に葬儀・告別式が執り行われました。三浦会員の本学会に対するご貢献に対し、心から感謝と哀悼の意をもってご冥福をお祈りするとともに会員の皆様にお知らせ申し上げます。

原稿募集

『大学史研究通信』第56号は2008年10月31日に発行予定です。会員諸氏の現在の研究紹介、文献案内、会員主催行事のお知らせなど、どのようなものでも結構です。皆様からの投稿を心よりお待ちしております。原稿提出・お問い合わせ等は、事務局（代表Eメールアドレス：jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）、もしくは本通信編集担当の井上までお願いいたします。

住所・所属変更届のお願い

住所や所属（昇任・学位取得も含む）に変更のある会員は事務局までご一報くださるようお願いいたします。また、教授・研究のために海外にご滞在予定の方も、海外でのご連絡先をお教えいただけましたら幸いです。ご連絡は事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までお願いいたします。なお、変更届にあたっては、年会費払込票（郵便口座）の「通信欄」を利用することも可能です。

『大学史研究通信』バックナンバー希望者に頒布いたします

『大学史研究通信』第14号～現在発行号までを希望者に頒布いたします。事務局代表Eメールアドレス（jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp）までご連絡ください。折り返し、請求方法をご連絡いたします。

編集後記

昨年のセミナーにて、新たに事務局員に任命されました井上美香子と申します。大学史研究会に入会したのは修士課程1年の時で、その時は自分が大学史研究会の事務局の一員になるとは考えてもみませんでした。

いろいろと至らぬ点もあるかと思いますが、精一杯務めさせて頂きたいと思っておりますので、今後ともどうぞご指導の程よろしくおねがい申し上げます。

(井上 美香子 記)

『大学史研究通信』第55号の編集は事務局・井上美香子が担当いたしました。

連絡先 〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-19-1
九州大学 教育学部 教育社会史研究室 (新谷恭明研究室)
TEL&FAX: 092-642-3113
E-mail: mikako-inoue@luck.ocn.ne.jp

『大学史研究通信』第56号は、2008年10月31日発行予定です。

大学史研究会事務局

〒635 - 8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良文化女子短期大学 吉村日出東研究室内 大学史研究会
TEL: 0745 - 52 - 1279 E-mail: yosimura@narabunka.ac.jp
URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jshshe/>

事務局へのお問い合わせは、なるべく下記代表Eメールアドレスまでお願いいたします。

E-mail: jshshe@wwwsoc.nii.ac.jp

大学史研究会事務局員 (五十音順)

井上 美香子 (九州大学大学院)	岡田 大士 (東京薬科大学)
沖塩 有希子 (青山学院大学)	杉谷 祐美子 (青山学院大学)
田中 正弘 (島根大学)	福留 東土 (広島大学)
吉野 剛弘 (東京電機大学)	吉村 日出東 (奈良文化女子短期大学)